

【大島町】

■実施日時：令和6年10月28日 14:30～16:30

■参加部署：大島町福祉けんこう課けんこう係(係長・保健師・看護師)
大島町若者自立サポートステーション

■実施内容：取組状況の共有・情報交換

○ひきこもり支援の中心部門

- ・福祉けんこう課
- ・プラットフォームは「自立支援サポートチーム」がある。全体会は年に1回だが、連絡会は月1回開催している。連絡会で個別支援計画を作成。
⇒福祉けんこう課(保健師・看護師)、地域若者サポートステーション支援員、子ども家庭支援センター担当者、教育委員会、教育相談室担当者、島しょ保健所大島出張所(保健師)が構成メンバーとなっている。
- ・窓口としては、福祉けんこう課けんこう係、子ども家庭支援センター、島しょ保健所で受けている。

○大島町の動き

- ・平成26年からひきこもりの方の社会参加を促すために、早期の自立支援を目的として「若者自立ステーションロケット」を立ち上げる。当初は居場所スペースとして提供。
- ・「若者自立ステーションロケット」は相談窓口ではなく、あくまで活動場所としている。
- ・平成26年のロケット立ち上げの前段階として、適応指導教室「パレット」が立ち上がった。不登校支援後、中学卒業した子どもたちがどのようにしているのか、という視点から、ひきこもりを食い止めるためには目を向けなければならないという声が上がり、元々は違う会議のメンバーが連絡会をまず持ち、連絡会メンバーが中心となって、大島町が抱えているひきこもりの把握に努めた。その中でひきこもりが一定数いることがわかり、居場所作りと相談窓口を作ろうということで、それらが平成26年に立ち上がった。その後居場所スペースのロケットと相談窓口として保健所、福祉けんこう課、子ども家庭支援センター、教育相談室の4つがチームになり運営を開始した。

○民生委員・児童委員との連携状況について

- ・常日頃から地域全体を民生委員・児童委員が見守りをしている。主にアンケートで協力してもらっているが、実際に動いてもらっていることはまだない。

○学校との連携状況について

- ・小中学生の不登校の対応は、学校復帰を目指す適応指導教室「パレット」が設置されている。
- ⇒高校入学については、学校との調整に支援員が携わり、学校との連携に努めている。
- ⇒活動場所がロケットの隣であるため一緒に活動することがある。交流の機会は設けるよう取り組んでいる。

○重層的支援体制整備事業・地域福祉計画について

- ・町の資源で対応出来ているため事業の検討はしていない。
- ・地域福祉計画では、ひきこもりで悩んでいる本人やご家族に対する相談支援の実施や自立へ向けた支援を行っている。また対象となる方の把握方法について、関係機関と協議・検討し支援体制を強化。

○生活困窮者自立相談支援機関での対応について

- ・当事者及び家族からの相談実績あり。
- ・ケース対応例を以下に示す。
本人が精神疾患を患っていることに加え、一人暮らしで難しい状態なことや大島町では精神疾患を抱える方への支援が手薄という事もあり、グループホームにつなげてそちらで生活する形になったケース。
- ・高校卒業したいという本人の希望があったので定時制受験に向けてのサポートを行なったというケース。

○地域包括支援センターでの対応について

- ・「ひきこもりに関する実態調査」実施の際、地域包括支援センターのケアマネージャーが把握している範囲でアンケート調査に協力してもらった。
- ・高齢者の場合は地域包括支援センター及びケアマネージャーがひきこもり情報を把握しているが、どのようにアクションしていくかはわからず、ひとまずはつながっているから良い、というところで落ち着いている現状。

○ひきこもりサポートネットからの情報提供・事例紹介・提案等

- ・島ならではの近しい関係であるがゆえに相談に繋がりにくい場合もあるので、自治体に相談しづらい方にはひきこもりサポートネットの利用を提案。
⇒ピアオンライン相談をご案内。近しい間柄では相談しづらい、島外の方と話したい方に対して、うまく活用していただきたい。
- ・青少年自立援助センターの利用を提案
⇒宿泊型の集中訓練プログラム（厚生労働省からの受託事業）についてご案内。

- ・福祉財団による民生委員向けのオンライン研修をご紹介。
- ・他の自治体ではひきこもりの施策を考える際に当事者の意見を取り入れ、反映している。
当事者の意見も取り入れることを検討してみてほしい。
- ・困難ケースについては多職種専門チームの利用を提案。